

カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

第1部：オルタナティブな映像とは？

機材が小型化し、高機能化し、そして安価になるとともに、映像表現は質量ともに飛躍的に進歩してきています。一方、映像や音声の加工・編集技術も進化し、同じ素材から異なった結論を導き出すことはきわめて容易になっています。信じられないような問題が世界にあふれるようになった時代に、映像はどのような力を持ちうるか。また、効率と成果ばかりが求められる社会において、マスメディアやメジャーな映像表現と一線を画する「オルタナティブな映像」はどのように存在しうるのか。ふたりの映像作家が話し合います。

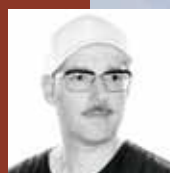
第2部：「女流文学」は存在するか

21世紀になっても、女性による文学作品を「女流文学」と表現する国は少なからずあります。「男流文学」なる言葉は、ドイツや日本を含め、ほとんどの国に存在しません。この区別、いや差別は、いつになったら解消されるのでしょうか。また、古来いわれる「ますらおぶり」（男性らしさ）と「たおやめぶり」（女性らしさ）は、現代文学においても通用する概念でしょうか。文学におけるジェンダー問題について、女性らしい表現があるのかわからないのかについて、翻訳も手がけるふたりの文学者が意見を交わします。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツの芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



GOETHE
INSTITUT
VILLA KAMOGAWA



© Roland Baege

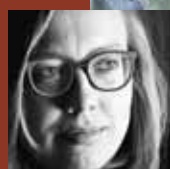
アヒム・レンゲラー (美術家、映像作家) Achim Lengerer (Bildender Künstler, Filmemacher)

1970年生まれ。プラハやフランクフルト、ロンドンで映画を学ぶ。ドイツ国内外の大学で映画のサウンドトラック、パフォーマンス、インスタレーション、スクリプト等を教えた。プロジェクト『freitagsküche』『voiceoverhead』の共同設立者。ベルリンの展覧会スペース/出版プロジェクト『Scriptings』を運営。ヴィラ鴨川滞在中は、日本人映像作家・原田剛をテーマに、社会と個人の関係性を描くポートレート映画を製作予定。www.scriptings.net



原田 剛 (映像作家) Goh Harada (Filmemacher)

1963年東京生まれ。1986年慶応義塾大学理工学部卒業。1999年フランクフルト・シュテーデル・シュレー・映画科卒業。1999年マイスターシューラー取得。8ミリ・16ミリフィルムの具象・抽象作品を多数製作。多岐にわたる雑音・音声収集。2013年より画像と音の同時性に着目したビデオプロジェクト「Photo Collage」を継続中 (YouTubeにて公開 - goharadatokyo -)。翻訳家。東京在住。



© Moritz Zangerl

リリアン・ペーター (文筆家、翻訳家) Lilian Peter (Autorin, Übersetzerin)

1981年生まれ。ウィーンとハイデルベルク等で哲学、古代ギリシャ語、音楽学を学んだ後、ライプツィヒ・ドイツ文学研究所に学んだ。現在、ベルリンを拠点に文筆家、哲学者、翻訳家として活動する。2017年、エッセイ『Diebinnen im Paradies』がEditエッセイ賞を受賞、2018年にMatthes&Seitz Berlin社より出版された。ヴィラ鴨川滞在中は、『女性』をテーマにしたエッセイプロジェクトに取り組む予定。peterslilie.wordpress.com



© Kikuko Usuyama

谷崎 由依 (小説家、翻訳家) Yui Tanizaki (Autorin, Übersetzerin)

1978年福井生まれ。京都大学大学院文学研究科修士課程修了。2007年『舞い落ちる村』で文学界新人賞を受賞しデビュー。著書に『舞い落ちる村』(文藝春秋)、『囚われの島』(河出書房新社)、『鏡のなかのアジア』(集英社)、訳書にジェニファー・イーガン『ならずものがやってくる』、ノヴァイオレット・ブラワヨ『あたらしい名前』、コルソン・ホワイトヘッド『地下鉄道』(すべて早川書房)ほか多数。近畿大学文芸学部准教授。



小崎 哲哉 (司会、構成) Tetsuya Ozaki (Moderator)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』『続・百年の愚行』を編著者として刊行し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーも担当した。2018年3月、『現代アートとは何か』を河出書房新社より刊行。realkyoto.jp

主催・お問い合わせ
Goethe-Institut Villa Kamogawa
京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)

info-kyoto@goethe.de

www.goethe.de/villa-kamogawa



〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自ご負担ください)



	京阪出町柳駅 S-Bhf. Demachiyanael	今出川通 Imadegawa Str.
鴨川 Kawabata Str.	東大路通 Higashi-Oji Str.	東一条通 Higashi-Ichijo Str.
近衛通 Konoe Str.	丸太町通 Marutamachi Str.	
京阪神宮丸太町駅 S-Bhf. Jingu-Marutamachi		